

## 2020年3月期 第三四半期決算説明会 質疑応答要旨

開催日： 2020年2月4日（火）、17:00～18:00

説明者： 専務執行役員 CFO 内田貴和

執行役員経理部長 重田哲也

IR部長 稲室昌也

### <質問者1>

Q1：機械・インフラセグメントの実力値は。資産リサイクルを通じた売却益も実力値とみなして1,000億円程度との理解でよいか。

A1：資産リサイクル及びディベロップ・アンド・セルも生業であるため、期によって多少のブレがあるものの、900億～1,000億に手が届く水準と考えている。4Qに実現確実なリサイクル案件があり、今回通期見通しを950億に上方修正している。

Q2：新型肺炎の影響は。影響を受けるセクターは。

A2：定量面の影響は顕在化していないものの、今後経済活動全般が低下し広い範囲で影響が生じることを懸念する。鉄鋼製品・化学品など市況の底入れを期待していたセグメントでは新型肺炎の影響で打ち消される恐れがある。一方で、4Qも既に2月に入っているなか、派生する今期の業績下押し圧力は限定的か。来期以降の業績や中経前提にも関わるため、進捗を注視していく。

### <質問者2>

Q3：METSの重油トレーディング及び自動車関連事業、ガス配給事業堅調の背景は。今後堅調が維持されるか。

A3：METSにおける重油トレーディングは、船舶用燃料の規制強化に伴い低硫黄分の重油需要が高まる事を先取りして、ビジネスにつなげたもの。裁定取引の機会を捉えたトレーディング活動であり、継続的に維持されるかは言えない。

自動車事業については、海外自動車ディーラー事業や、販売金融事業等が比較的堅調に推移している。この環境下である程度堅調な利益を上げていることを踏まえると、今後一定程度の底堅さが期待される。

ガス配給は、事業展開するブラジルの景気自体が一定程度底入れしており、インフラ事業の性質も持つ為、ある程度の堅調さを維持している。

Q4：株主還元後のフリー・キャッシュ・フロー3年累計は、企業年金への掛金拠出400億円も加味され900億となったが、当該金額からリースの影響500億円を除いた残り400億円の使い道は。

A4：4Qで予定している年金基金への掛金の追加拠出について、年金財政単体では、過去からのさまざまな要因で積み立て不足となっており、財政再計算をした結果、諸事情を

踏まえて追加拠出を決定した。来年度以降の拠出額の減少が見込まれる。一方で、当社連結決算上は、12月末で約560億円の退職給付に関わる債務をBSで認識している。これは一過性の扱いとなり、還元政策には影響ない。

400億円について計算上は残っているが、キャッシュのインもアウトも3月末までに多少のぶれは生じるであろう。よほど大きな事が起こらない限りは、この枠組みで現中経期間中はほぼ確定と考えている。次期中経における株主還元政策については鋭意検討して行く。

<質問者3>

Q5：今回の減損計上を受け、モザンビーク石炭・インフラ事業の収益見通し及び償却スケジュールはどう変わったか。

A5：減損の主要因は可採埋蔵量の減少で、それを受けて生産計画の見直しを実施。今後3月から選炭機の大規模改修を実施し、2020年下期に年産15百万トン体制を目指す。償却スケジュールに関しては手元データがないこともあり回答を控える。

Q6：Vale資本利子の決議を受け、当社は配当収益を認識したが、資本利子とはどのようなものか。

A6：資本利子は伯税法上認められた株主還元の一形態で、普通配当とは異なり、支払利子として損金算入出来るもの。当社は配当に類似するものとして配当収益を未収計上したが、Valeの支払時期は未定。

<質問者4>

Q7：モザンビーク石炭・インフラ事業について、減損後の可採埋蔵量や投融資簿価を教えてください。

A7：可採埋蔵量は、高剥土比エリアを新採掘計画から除外したことに伴い減少したが、具体的な数字は差し控える。今後のVale公表を参照頂きたい。投融資簿価については、公表済みの9月末時点の投融資簿価の数字を参考にして頂きたい。

Q8：化学品の業績予想は従来予想変わらず200億円だが、ITCの業績予想も折り込まれているのか。ITCの状況次第で、大きく上振れする可能性はあるか。

A8：ITCは7割程度まで操業回復済み。それも業績予想には織り込まれていることから、大幅に上振れることは想定していない。

<質問者5>

Q9：化学品セグメントの収益力について。一過性要因を除いた実力値はいくらか。今後4Qにかけて変動要素はあるか。

A9：同セグメントの3Q単独の利益120億円の内、評価性が60から70億円程度、リサイクルが10億円程度、これを除いた40億円から50億円が実力値と分析している。通期

の業績予想は 200 億円を据え置いており、ある程度固いと思っているが、新型肺炎の影響等を見て行く必要あり。

Q10：投融資と資産リサイクルが前回から減っている理由について。

A10：リサイクルは主に予定していた案件の翌期への期ずれ。想定よりも高い値段で売却出来ているケースもある。投融資に関しては昨年の IHH 追加出資以降、案件厳選を進めており、2Q でも投融資の縮減をして追加の株主還元を実現した、という流れが続いている。

<質問者 6 >

Q11：鉄鋼製品は期初計画 150 億から、2Q 時通期予想及び今回の通期見通しで 50 億円ずつ下方修正した。修正の要因と来期に向けた見通しは。

A11：鉄鋼製品は自動車販売台数の停滞及び鋼材価格の下落が影響。Game Changer Holdings では米国内鋼材価格の伸び悩み等でマージンが低下した。Gestamp 事業も自動車向けプレス事業で影響あり。新規工場の償却負担や景況感悪化による価格低下も背景にある。

Q12：機械・インフラ全体で堅調との説明であるものの、建機・産機、VLI、FPSO など前年同期比で 2 桁減益となっている理由と評価は。

A12：FPSO は順調である。今期はリファイナンスの一環としてプロジェクトボンドを発行し事業価値を上げることができたが、一過性コストとして金利スワップの解約費用を認識した。FPSO は受注が積みあがっており、強固なポートフォリオとして収益期待がある。建機・産機は昨年よりも業績が悪いが、2Q 以降は業績改善があり、底堅い印象。VLI は輸送量減の影響を受けた。競争環境の厳しさから弱含みの可能性も認識している。

<質問者 7 >

Q13：Moatize 炭鉱について、大規模改修に必要な投資額は。

A13：本年 3 月から選炭機の改修を実施する予定で、纏まった規模の投資キャッシュ・アウトは見込んでいない。

Q14：エネルギーセグメントの基礎営業キャッシュ・フローについて、4Q で大きく落ち込む要因は。

A14：エネルギーでは LNG 配当の受け取り時期によって段差が生じる事があり、3Q で受け取った配当が 4Q には予定していないという事。また 4Q に税負担が集中する事も原因の 1 つ。